

No	日にち	記事		内容	日経URL ※有料会員
1	2024年 6月7日 (金)	日経 ワライ	洋菓子店倒産、 過去最多ペース 甘くない原材料費高騰	- 洋菓子店の倒産が急増している。帝国データバンクが7日に発表した調査によると、「街のケーキ店」を中心とした洋菓子店の倒産は1～5月に18件で、2000年以降で最多だった19年を上回るペースとなっている。原材料や人件費の高騰に加え、コンビニエンスストアなどとの競争激化が背景にある - 背景にあるのが原材料価格の高騰だ。23年以降、洋菓子作りに欠かせない砂糖や生クリームなど、原材料のほぼ全てで値上げが相次いだ。価格高騰に耐えられず、事業継続を諦めた店が目立った。特に高騰が目立つのがチョコレートだった	
2	2024年 7月5日 (金)	日経 39面	介護事業者倒産 1～6月最多	- 東京商工リサーチは4日、1～6月の介護事業者の倒産件数が81件と遡れる2000年以降で最多になったと発表。前年同期比では27件増えた。24年度の介護報酬改定で基本報酬を引き下げた訪問介護を中心に倒産が相次いだ。 - 人手不足で事業を続けられない企業もあった。業態別の倒産件数では訪問介護が40件と約半数を占めた。	
3	2024年 7月12日 (金)	ダイヤモンド ワライ	ラーメン店の倒産が過去最多 「ミシュラン掲載の人気店」ま でが破綻したワケ	- コロナ禍を耐え抜いたはずのラーメン店の倒産が相次いでいる。2023年度（2022年4月～2023年3月）のラーメン店の倒産は、過去最多の63件で前年度の2.7倍に増えた。 - 一杯のラーメン代は「千円の壁」と言われてきたが、大都市ではゆうに千円を超えるラーメンでも行列ができる人気店もある。だが、ブームに乗じた店舗拡大は両刃の剣だ。もともとラーメン店は参入障壁が低く、生き残りが厳しい業界と言われるが、原材料代や光熱費が高騰するなか、集客競争とコストアップのはざまでラーメン店の模索が始まっている	
4	2024年 7月12日 (金)	日経 14面	焼肉店倒産、最多ペース 円安で食肉価格高騰	- 焼肉店の倒産が相次いでいる。帝国データバンクによると、2024年1～6月は20件で前年同期の約2.5倍になった。通年で過去最多だった19年を上回るペースだ。円安や米国産牛肉の生産減少で食肉価格が高騰し、収益を圧迫している。 - 他にも、物価高で消費者の節約志向が強まっていること、くわえて、ワタミなど外食大手が焼肉店に参入して店舗数を増やし、小規模な店が価格競争に耐えられなくなった側面	

本日の深掘りウォッチ：倒産が止まらない！？2024年度の業種別厳しい現状をまとめてみました！（2024.11.12）

No	日にち	記事	内容	日経URL ※有料会員
5	2024年 9月3日 (火)	帝国 データバンク 「美容室」の倒産急増、前年 比1.5倍で過去最多ペース	- 美容室の淘汰が加速している。2024年に発生した美容業（美容室）の倒産は、8月までに139件発生した。23年の同期間に比べて約1.5倍となったほか、年間で最多だった2019年（166件）を大きく上回る勢いで推移している。 - 美容室の倒産が急増した背景には、新規開店が続いたことによる店舗間競争の激化があげられる。加えて、円安や原材料高の影響によるシャンプーをはじめとした美容資材の価格高騰、スタイリストなどの獲得難を背景とした人件費などの各種コストアップが追い打ちとなった。	
6	2024年 10月10日 (木)	ダイヤモンド オンライン 歯科医院の倒産件数が過去 最多！超大型倒産も相次ぐ 深刻な事情	2024年の歯科医院経営事業者（法人および個人経営）の倒産は9月末時点で23件となり、過去最多となっている2018年（通年で23件）に並んだ。今後も発生ペースが衰えなければ、10月中にも過去最多を更新し、通年件数は30件ほどになる見通し。 - 背景には、コンビニを大きく上回る施設数（6万6689施設/2024）があり、深刻な経営者の高齢化ある。ほかにも電子カルテ義務化の流れによる費用負担増など、倒産・廃業のピークはこれからとみる	
3	2024年 11月3日 (日)	帝国 データバンク 「建設業」の倒産急増、 過去10年で最多ペース 深刻な「職人不足」で苦境、 人件費の高騰も経営を圧迫	- 中小建設業の苦境が続いている。2024年に発生した「建設業」の倒産（負債1000万円以上、法的整理）は、10月までに1566件となった。8年ぶりの高水準を記録した前年をさらに上回る急増ペースで推移し、通年では過去10年で最多を更新する見込みとなっている。 - 木材をはじめとした建築資材価格の高止まりに加え、建設現場での「職人不足」と求人難に伴う人件費の高騰が、中小建設業者の経営を圧迫している。帝国データバンクの調査では、人手不足感を抱える建設業の割合は2024年9月時点で69.8%に上り、高水準での推移が続いている。また、業務遂行に不可欠な資格を持つ従業員が転退職するなどして事業運営が困難になった「人手不足倒産」も前年を上回るペースで推移	
4	2024年 11月10日 (日)	帝国 データバンク 「学習塾」の倒産、 過去最多水準で推移	- 学習塾の倒産がコロナ禍を経て過去最多水準で推移している。2024年1～10月の倒産件数（負債1000万円以上、法的整理）は32件で、前年同期（25件）比で28.0%増加。このままのペースで推移すると、通年の倒産件数は過去最多に並ぶ。 - 背景は、主な学習塾利用層である6歳から18歳の人口は2013年（1488万人）から2023年（1351万人）の10年間で約9%減少（総務省「人口推計」）する等、アフターコロナでも生徒数が回復せず授業料収入が減少し、倒産するケースが増加している。また、中堅クラスの学習塾では教室など設備投資のために借入金が膨らんでいるケースもあり、今後も少子化の深刻化やコロナ融資の返済負担による倒産リスクは拡大する公算が大きい。	